

山陽小野田市民病院
公的医療機関等2025プラン
(公立病院)

平成30年10月策定
令和 5年 1月改定

【山陽小野田市民病院の基本情報】

医療機関名：山陽小野田市民病院

開設主体：山陽小野田市長

所在地：山陽小野田市大字東高泊1863番地1

許可病床数：215床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期160床・回復期55床

稼働病床数：215床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期160床・回復期55床

診療科目：内科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、
放射線科、泌尿器科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、
麻酔科、精神科、歯科口腔外科

職員数：令和4年4月1日現在

- ・ 医師 28人
- ・ 看護職員 180人
- ・ 専門職 43人
- ・ 事務職員等 30人

指定等

救急告示病院

病院群輪番制病院

災害拠点病院

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

・地勢等

本圏域は、宇部市、美祢市、山陽小野田市の3市で構成されており、面積は、県全体の14.6%を占めている。地理的には、瀬戸内海沿岸部に市街地等が集中する一方、北部は山間地が多く、過疎化が進んでいる。

・人口

人口は、平成22年(2010年)の266,952人が、令和7年(2025年)には238,710人(平成22年比-10.6%)、令和22年(2040年)には204,329人(同-23.5%)に減少すると予測されている。一方、75歳以上人口は、平成22年(2010年)の37,720人が、令和7年(2025年)には50,431人(同+33.7%)に増加した後、令和22年(2040年)には45,993人(同+21.9%)に減少すると予測されている。

(人口は国立社会保障・人口問題研究所の2018年3月推計による。)

・医療機関・病床の状況

令和3年(2021年)11月現在、本圏域には、28の病院と201の一般診療所、124の歯科診療所、151の薬局がある。また、令和3年度(2021年度)病床機能報告結果によると、高度急性期378床、急性期1,783床、回復期615床、慢性期1,356床となっており、急性期・慢性期とも過剰で回復期の病床が少ない状況にある。

(医療機関の状況は日本医師会の地域医療情報システム、病床機能報告結果は2021年7月1日現在の数値による。)

② 構想区域の課題

- ・ 山口大学医学部附属病院による全県的な高度・専門医療の確保及び圏域内の医療機関との連携による圏域の医療提供体制の構築
- ・ 救急医療を担う医療機関の役割分担、相互連携の推進
- ・ 救急医療の役割分担、相互連携についての住民への普及、理解促進
- ・ 地域包括ケア病棟の整備、急性期病床からの転換等による回復期機能の確保
- ・ 訪問診療等の在宅医療に取り組む医療機関(かかりつけ医等)の確保
- ・ 患者の容態変化時の入院対応など後方支援病院の確保
- ・ 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築
- ・ 医療従事者の高齢化等に対応した医師、薬剤師、看護師等、医療従事者の確保(特に訪問看護ステーションに従事する看護師の確保)
- ・ 介護従事職員の人材確保
- ・ へき地や医療機関への通院に時間を要する地域(特に美祢市)での医療の確保

③ 自施設の現状

基本理念

「誠実」「公正」「連携」

基本方針

親しみやすく、思いやりのある医療を誠実に行います。

全人的かつ専門的で、良質な医療を行います。

患者さんの気持ちと権利を尊重し、心温かい療養環境を提供します。

市民病院としての使命を自覚し、患者さんのニーズに適切にお応えします。

保健・医療・福祉・介護の連携を推進します。

診療実績

届出入院基本料 急性期一般入院基本料 4
地域包括ケア病棟入院料 2（令和2年7月～）

項目	病床稼働率 (除コロナ病棟)	急性期病床 平均在院日数	新型コロナ 確保病床数	新型コロナ 延べ入院患者数
令和元年度	80.4%	15.4日	—	—
令和2年度	76.5% (79.3%)	13.4日	10床	※ 32人
令和3年度	71.3% (85.0%)	12.5日	15床	1,239人

※9月以降

項目	紹介率	1日平均 外来患者数	救急搬送 受入件数	消防局管内における 救急搬送受入割合
令和元年度	26.0%	413人	731件	8.9%
令和2年度	26.5%	372人	716件	9.8%
令和3年度	24.8%	389人	652件	8.3%

自施設の特徴

種々の合併症患者にも対応ができる腎・透析センターを保有する病院
産婦人科医師及びスタッフが充実した地域の中核的な分娩取扱い病院
市内の介護・福祉施設の嘱託医として在宅診療に貢献する病院

④ 自施設の課題

・医師の確保

市民病院は、これまで山口大学の医局から紹介・派遣してもらう方法で医師を確保している。平成16年度に新しい医師臨床研修制度が開始され、山口大学医局が医師不足に直面することとなり、当院もその影響を受けている。幸いに当院は山口大学医学部から距離的に近いこともあり、多くの非常勤医師の協力を得られているが、常勤医師の確保は大きな課題である。

・救急医療

今後も救急医療を支える体制を維持することが当院の使命と認識している。医師の高齢化、また令和6年から始まる医師の働き方改革により、時間外勤務医師の確保は厳しい状況にあるが、他の病院と協力しながら救急医療の一端を担わなければならない。一方、住民に対して救急対応に疲弊しつつある病院、あるいは医師や医療スタッフの実状を理解していただき、住民とともに望ましい救急体制を構築する啓発活動を行う必要があり、市の健康福祉部を中心に行っている。

【2. 今後の方針】

① 地域において今後担うべき役割

・第7次山口県保健医療計画で示された5疾病（がん・脳卒中・心筋梗塞等の脳血管疾患・糖尿病・精神疾患）のうち精神疾患を除く4疾病については、これまで予防、急性期医療、回復期医療を通じて専門的治療を行ってきた。今後もこの体制を維持し、市民が気軽に受診でき、継続的かつ安定的に安心・安全、健康な暮らしを守る良質な医療を提供することが、地域に開かれた病院としての役割と考えている。

・地域医療構想調整会議の議論を踏まえ圏域内の病院間における機能分化・連携強化を図るとともに、医師会と連携して地域医療を確保する。

・病院群輪番制病院として医療圏の二次救急医療体制の一端を担う。さらにサポート病院として体制強化の役割を担う。

・公立病院として山陽小野田市地域防災計画の医療救護活動体制を確立し、災害時における市民の安心・安全を確保する。また、災害拠点病院として災害医療体制の一端を担う。

・透析患者を総合的に診療できることから、手術を必要とする患者が一時的に転院してくることも多く、今後もこの機能を維持することで地域医療に貢献する。

・この区域においてお産ができる公的病院は他にないことから、安心して受診できる病院としてお産の数を増やして地域医療に貢献する。

・新興感染症については山口県の要請に柔軟に対応していく。新型コロナウイルス感染症では診療・検査医療機関として外来診療、宿泊療養者のCT検査を実施し、入院協力医療機関として患者を受け入れている。また、医療圏における妊婦の感染者の受け皿となっている。市との連携では、ワクチン接種を実施するほか、市が受け持つ市内医療機関向けのワクチン払出し業務を実施している。

・市民病院は市の一部門であることから、患者の実生活を把握している保健衛生や福祉行政部門と緊密な連携をとって在宅医療につなげていく。

・公立病院である市民病院では、介護保険事業との整合性を確保しつつ、在宅療養後方支援病院として緊急時の一時入院に必要な後方病床の確保等、積極的に在宅療養の支援を行う。

・特別養護老人ホームサンライフ山陽、地域密着型特別養護老人ホームなごみの里ななせ、小野田老人ホームで、訪問による健康管理及び医学的処置を行っている。また、指定障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所の予防接種や健診を実施しており、これらをもって地域に貢献する。

・宇部看護専門学校等への講師派遣のほか、看護学生の臨地実習、助産学実習、薬学部学生の病院実習等、様々な職種の実習を実施することで医療従事者の養成に貢献する。

② 今後持つべき病床機能

- ・急性期病床で在宅患者の急変時における急性期医療を担っていく。
- ・回復期病床で患者の退院に向けた支援を行う。

③ 見直すべき点

- ・宇部小野田保健医療圏の課題解決に向け、過剰とされている急性期病床を16床削減して144床とし、地域包括ケア病床55床と合わせて病床数を199床とする。
- ・経営の安定を図るため令和6年度にDPC病院となる。

④ 今後の課題

- ・常勤医の確保（小児科・眼科・内科・外科・泌尿器科・整形外科）
- ・高齢化の進展に伴う認知症患者の増加への対応を検討する必要がある。
- ・リハビリ機能を拡充することで在宅に向けた取組みを進める必要がある。

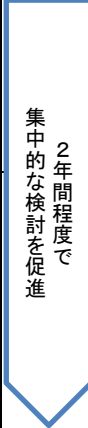
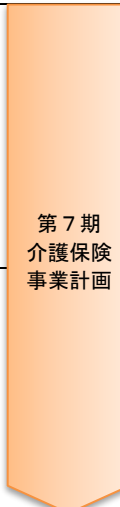

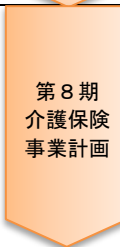
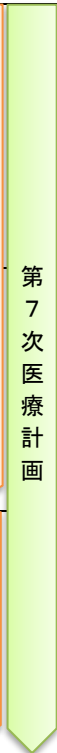
【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	215		160 144
回復期			55
慢性期			
休棟等			
(合計)	215		199
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度 (実績)	山陽小野田市病院事業改革 プラン改定案検討	同プラン改定	
2018年度	公的医療機関等2025プラン 検討	同プラン策定	
2020年度	急性期病床55床を回復期へ 転換		 
2021~2023 年度	急性期病床16床を削減 山陽小野田市民病院経営強 化プラン検討	地域医療構想調整会議における 合意形成 地域医療構想調整会議における 合意形成及び同プラン策定	 

- ② 診療科の見直しについて
検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	精神科
廃止		→	
変更・統合		→	

- ③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：86.5%
- ・ 紹介率：35.0%以上
- ・ 逆紹介率：37.0%以上
- ・ 平均在院日数：17.0日
- ・ 救急搬送受入件数：735件

経営に関する項目

- ・ 人件費率：57.4%以下
- ・ 医師数：30人

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)